両端がとがった棒二本と顔面骨とを拾って来た事が有ります。

（某氏）

小資料

押谷の貸膳

芦原町北潟東区より只今の富津へ通ずる本道の中程に、押谷と云ふ谷が有り、大昔の穴居時代の横穴と云えば歴史的にも大変古い時代となり、丁度人間が住居を営むに都合よく、東西の谷間で、穴は西南向に開き、前庭に浅い池が有り、熊笹が茂り、道路からは一寸見えにくい処です。

昔は其の横穴の前庭に坐して、神前に詣でた時の様に柏手を打って、何の何某で御座ります。大変我が儘なる御願で御座いまするが、明日は長男の結婚式で御座りますので、お祝の膳椀何拾人分を御都合願い申しますと、三回声高々に願い申しますと、明朝必ず願っただけの赤の膳椀が横穴の前に揃えて有り、又父母の何年法事と云いますと、又明る朝には黒の膳椀が横穴の前に揃えて有ったそうですが、徳川時代の大飢饉の年に、村人の不心得者が、お貸り申した其の膳椀をお返しせずに、他の人に売った者が居たそうです。其の後はどうも御願に詣でても御貸にならなく成ったそうです。

私も昭和三年十一月に友達と横穴の奥深く探見した事が有り、其の時長さ六・七寸、経一寸位の